

イン L 型光 D ケーブル・キャップ W26 セット クリアフォトシステムフィルム付

イン製品のお買い上げ有難う御座います。

イン L 型光 D ケーブル・キャップ セット シリーズは、マリンス-/現象、及びコ-/スト/フレアの発生を有効に抑制する、「イン クリアフォトシステム (PAT. P.)」を採用した、対応するデジタルカメラハウジング / マウントベースと弊社デジタルカメラ対応ストロボとを接続する光接続ケーブルです。

本キャップ W26 セットは、パナソニックのデジタルカメラ用純正ハウジング「DMW-MCFX01」「DMW-MCFX07」と、対応する弊社「28AD/AD マウントベース」を組み合わせたシステム専用となります。

製品の主な特徴

- 光ファイバーを用いた[光 D ケーブル接続]により、従来のワイヤレスレープ接続に比べ、水面直下や逆光といった外光の多い条件下でも、より確実にスレープ発光を可能としています。
- [クリアフォトシステム]を採用して、[光 D ケーブル接続]の確実性を維持しつつ、フロントボディの透明な純正ハウジングの欠点であった、デジタルカメラ内蔵ストロボによるマリンス-/現象、及びコ-/スト/フレアの発生を効果的に抑制し、クリアな画像を得る事ができます。
- デジタルカメラシステムを拡張する為のコアーツ、弊社マルチバースペース「28AD マウントベース」に直接取り付け可能。簡単/確実/コンパクトに外部ストロボとの接続を行う事ができます。
- ストロボとの接続に使用する「L 型光 D ケーブル」を 2 本まで固定可能な為、2 灯システムにも容易に対応可能です。

製品内訳

：	<ul style="list-style-type: none"> ・ L 型光 D ケーブル ① ・ キャップ W26・遮光板ユニット ・ キャップ W21/W24/W26/W46/W47/W48 ・ ホルダーユニット本体 ② ・ 光ガイド・キャップ WL ・ キャップ W5/W7/W9/W10/W14/W15/W18/W21/W24/W26/W32/W39/W46/W47/W48 ・ ホルダー ・ 光ガイド・ミラー M ・ キャップ 固定ダブル ・ 光ファイバ 固定ダブル ・ 光ファイバ 固定ゴム ・ 遮光板・MCFX01/FXF50 ③ ・ 予備光ファイバ 固定ゴム ④ ・ キャップ ネジ ⑤ ・ スペーサー ⑥ ・ 六角レンチ ⑦ ・ クリアフォトフィルム ⑧ ・ 保護フィルム ⑨ ・ フィルムシール ⑩ ・ 使用説明書(本書) 	<ul style="list-style-type: none"> ×1
：		

対応カメラハウジング / マウントベース (2018 年 5 月現在) :

- ・ パナソニック DMW-MCFX07 + イン 28AD/AD マウントベース・MCFX01/07/30 (DMC-FX01/07/30/33、DMC-FS1/2 専用) (※)
- ・ パナソニック DMW-MCFX01 + イン 28AD/AD マウントベース・MCFX01/07/30 (DMC-FX01/07/30/33、DMC-FS1/2 専用)

※ ワイド端が 28mm (35mm フィルム換算) の広角デジカメ『LUMIX DMC-FX01/07/30』、ワイド端が 35mm (35mm フィルム換算) の標準デジカメ『DMC-FS1/2』、いずれのカメラにも対応可能です。各カメラとの組み合わせ詳細は、28AD/AD マウントベース付属の使用説明書をご覧下さい。

対応ストロボ (2018 年 5 月現在) :

L 型光 D ケーブルをそのまま、取付け可能な機種(ワイヤレス“対応”ストロボ）

- ・ イン Z-330、S-2000、Z-240【Type4】、D-2000【Type4】

L 型光 D ケーブルのセンサーラグを、「センサーラグ・ワイヤレス非対応」(別売)へ交換する必要がある機種(ワイヤレス“非対応”ストロボ) (※)

- ・ イン Z-240【Type3/Type2/Type1】、D-2000【Type3/Type2/Type1】
D-2000W、D-2000Wn、D-2000S、D-180、D-180S、Z-220F、Z-220、Z-220S
- ・ イン TTL 調光センサー Z + イン Z-22
- ・ イン TTL 調光センサー SB + 対応する TTL オートストロボ
- ・ イン TTL 調光センサー YS + 対応する TTL オートストロボ
- ・ イン フォーカスライトコントローラ + イン Z-220F/Z-220S/Z-220/Z-22



「センサーラグ・ワイヤレス非対応」
【別売】

(※) 交換方法について、「センサーラグ・ワイヤレス非対応」付属の「ストロボ側 L 型コネクタ仕様変更手順書」をご参照の上、センサーラグの交換を行ってからご使用下さい。

接続方法

本製品による光 D ケーブル接続には、以下の 2 パターンが可能です。撮影条件やご使用用途により、適宜お選び頂けますが、通常は(A)接続をお勧め致します。

(A) クリアフォト接続

クリアフォトシステムを用いた通常の接続法。(※)

【第一選択】

(B) 従来接続

カメラ単独での撮影(内蔵ストロボ ON)を行う場合が多く、その都度クリアフォトフィルムを外す事が困難な場合。(※※)

【第二選択】

※ : クリアフォトシステムのご使用には、ダビング毎の点検、及び劣化前の交換が必要です。消耗品である、クリアフォトフィルム/保護フィルムが劣化した状態のまま撮影を続けると、カメラ内蔵ストロボ部も同様に劣化する場合があります。ご留意下さい。詳細は本書“クリアフォトフィルム/保護フィルムの点検作業について”の項をご確認下さい。

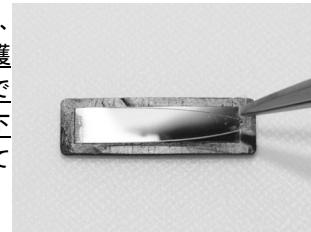
※※ : 上記クリアフォトシステムの点検/交換が面倒な場合のみ。クリアフォトシステムを使用しない事により、調光精度が低下したり、組み合わせるオプションによっては得られる画像に問題点が発生する場合があります。ご留意下さい。詳細は本書末の囲み記事をご確認下さい。

取り付け方法

接続法 (A) のみ

・ フィルムユニットを準備し、カメラに装着します

粘着面を上にしたフィルムシールに、クリアフォトフィルム(黒色)、保護フィルム(透明)各 1 枚を順に貼り付けます。保護フィルム(透明)はカメラ内蔵ストロボを保護する為の物ですので、ストロボに接する側(内側)に貼り付けて下さい。作成したフィルムユニットを、カメラの形状に合わせて内蔵ストロボ部へ貼り付けます。



接続法 (A) / (B)

・ 遮光板・MCFX01/FXF50 を取り付けます

28AD/AD マウントベースに、付属のキャップネジ/スペーサーを用いて遮光板・MCFX01/FXF50 を取り付けます。遮光板・MCFX01/FXF50 の表面にある凹みが、被写体側を向くように取り付けて下さい。必ず右画像の位置にスペーサーを挟んで下さい。強く締め過ぎると、28AD マウントベースが破損しますので、ご注意下さい。



接続法 (A) / (B)

・ 28AD/AD マウントベース、あるいは 28AD マウントベースをハッジングへ取り付けます

28AD/AD マウントベース付属の使用説明書を参考にして、ハッジングへ取り付けます。

・ キャップ W21/W24/W26/W46/W47/W48 ホルダーユニット本体を遮光板・MCFX01/FXF50 へ取り付けます

遮光板・MCFX01/FXF50 にキャップ W21/W24/W26/W46/W47/W48 ホルダーユニットを取り付けます。

この際、遮光板・MCFX01/FXF50 にある 4 つの凹みの内、下図で示した 2 つの凹みにホルダーフィクスチャの先端が嵌まる様に取り付けた後、ホルダーフィクスチャを指で締め、しっかりと固定します。

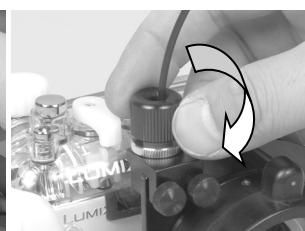
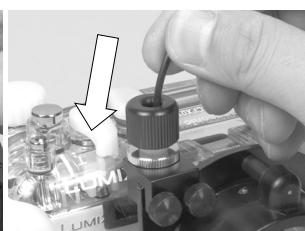


接続法 (A) / (B)

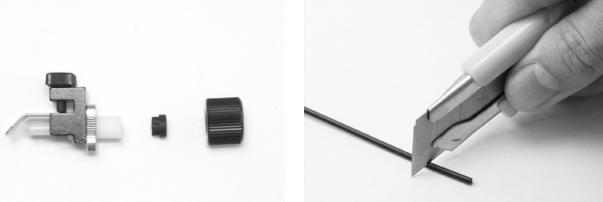
・ L型光Dケーブルを取り付けます

光ファイバ固定ダブルを左図の様に回して緩めてから、光ファイバ固定ゴムの穴に L 型光 D ケーブルのケーブル断端側を差し込み、奥まで達している事を確認後、光ファイバ固定ダブルを捩じ込んで固定します。L 型光 D ケーブルは 1 本のみでも、2 本同時でも、どちらでも固定する事が可能です。

L 型光 D ケーブルのケーブル側断端の取り付けが終了した後、コネクタ側をストロボのセンサ部に取り付けます。

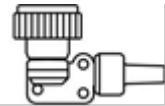


接続法 (A) / (B)

使用上の注意	<ul style="list-style-type: none"> L型光Dケーブルは超耐久仕様(最小曲げ半径2mm)となっておりますが、<u>それ以上曲げたり、強い刺激が加わつたりすると、内部で折れる可能性があります。</u>また、<u>長時間曲げたままにすると形状が記憶されてしまします。</u>正常に信号が伝わらなくなりましたら、オプションの「交換用光ファイバー・L型光Dケーブル/L型光ケーブルM用」と交換して下さい。 L型光Dケーブルをハウジングやストロボに接続した状態で、ケーブルを持ってそれらを持ち運ぶなどすると、光ファイバがL型コネクタから外れたり、ストロボ/L型コネクタ/光ファイバー等が破損する恐れがあります。このような扱いは避けて下さい。 フィルムシール、クリアフォトフィルム、保護フィルムは複数回の使用が可能です。陸上での使用等、フィルムユニットを取り外した際には、フィルムシールの台紙に張り戻して保存する事をお勧めします。 フィルムシールの粘着力がなくなった/クリアフォトフィルムが破損した等、交換が必要な場合には、オプションの「クリアフォトフィルム光Dケーブル・キャップ W7/W13/W14/W19/W24/W25/W26/W35/W43/W46セット用」をご使用下さい。
クリアフォトフィルム/保護フィルムの点検作業について	<ul style="list-style-type: none"> クリアフォトフィルムは赤外線のみを透過させるフィルターであり、通常は内部に熱を蓄積する事はありませんが、当製品は基本的に消耗品であり、使用を繰り返す事により赤外線の透過性能が低下します。 カメラ内蔵ストロボの発光回数一回当たりの発光量が、他機種と比べて大きいデジタルカメラにてクリアフォトフィルムをお使い頂く場合、あるいは、(弊社ストロボにはアドバンストキャンセル回路が搭載されており、一般的なご使用条件では発生する事はないと考えられます)カメラ内蔵ストロボを常にフル発光させるような場合は、発光時の熱による劣化が相対的に著しくなり、使用を重ねる事で焼け/溶解といった現象を起こし、光を透過させない状態となります。 この状態のままご使用を続けられると、カメラ内蔵ストロボユニット内部に熱が蓄積され続け、結果的にカメラ本体の内蔵ストロボプリズム部に熱変形が生じる恐れがあります(※)。 当現象を回避するために、弊社製クリアフォトフィルムを貼付けてご使用頂く場合[接続法(A)でご使用頂く場合]、必ず、下記要領にてご使用毎の点検/交換作業、及びご使用状況の確認を行って下さい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ダビング後必ず[クリアフォトフィルム/保護フィルム]の状態をご確認頂き、[クリアフォトフィルム/保護フィルム]に焼け/溶融の兆しが発生する前に新品と交換して下さい。 [クリアフォトフィルム/保護フィルム]の劣化を抑えるため、カメラ内蔵ストロボがフル発光するような状況での撮影はなるべくお控え下さい。 </div> <ul style="list-style-type: none"> クリアフォトフィルムを使用せずにご使用頂く[接続法(B)でご使用頂く]事で、クリアフォトフィルム/保護フィルムの定期的な点検/交換作業を必要とせずにご使用頂く事が可能となります。 但し、クリアフォトフィルムを使用した場合に比べ、調光精度が低下したり、組み合わせるオプションによっては得られる画像に問題点が発生する可能性があります。ご留意下さい。各制限事項の詳細は、本使用説明書末の囲み記事をご参照下さい。 <p>※ 2014年4月現在、カメラ内蔵ストロボの発光回数一回当たりの発光量が他機種と比べて大きいC-5060WZ/C-7070WZの2機種においてのみ、該現象の発生を確認しており、その他機種での該現象の発生は確認しておりませんが、ご使用条件等によっては、同様な症状が発生する可能性があります。ご留意下さい。</p>
メンテナンスについて	<ul style="list-style-type: none"> ご使用後は、真水中(30°C以下)に数時間静置して塩分等をよく取り除いた後、エガソ等で水滴を吹き飛ばし、直射日光の当たらない、風通しの良い場所に置き、乾燥させて下さい(完全乾燥には数日掛かります)。 特に光ケーブル両端の光ファイバー断面は、キャップW21/W24/W26/W46/W47/W48ホルダユニット本体を外した状態で丁寧に洗い、塩分を良く落して下さい。光ケーブルの断面に傷が付いたり、塩分が残留して黒つてしまったりすると、信号がうまく伝わらなくなる場合があります。 取り外したキャップW21/W24/W26/W46/W47/W48ホルダユニット本体は、構成部品を無くさない様注意して下さい。 上述の理由等で信号が伝わり難くなったりの場合や、ケーブルを短くして使用するには、必要に応じて光ファイバーを切る事が出来ます(L型コネクタ側の光ファイバーを切断する場合は、弊社ホーミングの『TOP>テクニカル>L型光ケーブル分解組立』にて公開しております『L型コネクタ仕様変更手順書』をご参照下さい)。光Dケーブルの切断には、ガリやカッターナイフ等、鋭利な刃物を使って下さい。  <p>切断の際、光Dケーブルの中心にある光ファイバーの切断面に凹凸が出来ると、光信号が伝わり難くなります。切断前の状態よりも断面の凹凸が酷くなった場合や、切断後に信号が伝わり難くなったり場合は、切断作業をやり直して下さい。</p>
各作業等を行うに当たって	<ul style="list-style-type: none"> 本書で説明を行っている「各作業」等は、プロテクタの製造元であるパナソニックが関知している物ではありません。「各作業」等についてのご質問、お問い合わせ等は、決してパナソニックに行わないで下さい。また、同様の理由により、「各作業」等を行う場合、お客様ご自身が全ての責任を負う必要がある事をご確認下さい。 「各作業」等を行う事によって、プロテクタの保障期間内であっても、<u>パナソニックの無償修理を受ける事が出来なくなる可能性があります</u>。予めご了承下さい。プロテクタの保証条項詳細につきましては、「DMW-MCFX01」/「DMW-MCFX07」付属の使用説明書/保証書をご確認下さい。 万一、「各作業」等を行う事によって不具合(プロテクタ本体、プロテクタ付属品、プロテクタ内にセットするカメラ本体等の不具合等)が生じた場合、弊社は一切、その責任を負いかねます。 万一、「各作業」等を行う事によって浸水等の不具合が生じ、この不具合に起因する、付随的損害(撮影に要した諸費用及び撮影により得べかりし利益の喪失等)が発生した場合においても、弊社は一切、その責任を負いかねます。 <u>以上の注意事項、及び補償条項について、ご納得頂けない場合には、「各作業」等を行わないで下さい。未使用の場合に限り、関連製品の返品を受け付けます。詳細につきましては、弊社までお問合せ下さい。</u>

- オプションについて**
- ・ L型光Dケーブル ￥6,200-(税抜)
製品内訳画像中の、①です。対応するストロボ2台と、キャップW26・遮光板ユニットとを直接接続する際、追加が必要となります。
 - ・ 交換用光ファイバー・L型光Dケーブル/L型光ケーブルM用 ￥4,000-(税抜)
製品内訳画像中の、①からストロボ取付用のコネクタを除いた物です。
 - ・ クリアフォトフィルム光Dケーブル・キャップW7/W13/W14/W19/W24/W25/W26/W35/W43/W46セット用 ￥1,500-(税抜)
製品内訳画像中の、⑧、⑨、及び⑩のセットです。
 - ・ キャップW26・遮光板ユニット(予備部品付) ￥3,800-(税抜)
製品内訳画像中の、②、③、④、⑤、⑥、及び⑦のセットです。

- ・ ストロボ側L型コネクタキット(ワイヤレス対応) [保守部品] ￥2,500-(税抜)
製品内訳図中の、①から光ファイバーを除いたコネクタユニットの交換キットです。



- ・ センサーブラグ・ワイヤレス対応 [保守部品] ￥600-(税抜)
本製品に標準装備されている、ワイヤレス“対応”ストロボ用のセンサーブラグです。



- ・ センサーブラグ・ワイヤレス非対応 [保守部品] ￥600-(税抜)
ワイヤレス“非対応”ストロボ用のセンサーブラグです。本製品を、ワイヤレス“非対応”ストロボ（本書内「接続対応ストロボ」の項参照）に使用する場合に、本製品のセンサーブラグ・ワイヤレス対応と交換します。



有限会社 イノン 〒247-0061 神奈川県鎌倉市台 2-18-9
Tel. 0467-48-2174 / Fax. 0467-48-2178
E-mail support@inon.co.jp / URL http://www.inon.co.jp/
2018年5月

※ 外部ストロボを使用する際の注意点、特に、クリアフォトシステムを用いないで外部ストロボをご使用の際には・・・

クリアフォトシステムを用いずに、外部ストロボ（カメラ内蔵ストロボのスレーブストロボとして）使用する場合や、他の外部ストロボと組み合わせて2灯以上の増灯を行う場合、撮影条件によっては、得られる画像がオーバーとなる可能性があります。

この現象は、（カメラ内蔵ストロボを含め）多灯とする事でストロボシステム合計の最小発光光量が大きくなり、調光範囲の最短側が長くなってしまう事に起因します。特に、特定の（内蔵ストロボの最小発光光量が比較的大きい）カメラで、クリアフォトシステムを用いずに増灯を行い、最短撮影距離付近の撮影を行った場合、この現象が顕著に表れます（お手元のカメラの最小発光光量は、カメラ単体で最短撮影距離付近の内蔵ストロボ撮影を行ってご確認下さい）。以下の対策を行う事で、適正露出とする事が出来ます。ご検討下さい。

- ・ クリアフォトシステムを使用する
- ・ カメラの絞りをより絞った状態に変更する
- ・ ストロボの位置を被写体から遠ざける
- ・ 外部ストロボに減光板等を取り付け、光量を落とす[対応する場合のみ/外部ストロボ付属の使用説明書をご確認下さい。]

また、この接続方法では、カメラ内蔵ストロボの光が完全に遮光されない為、レンズ前のゴミ/浮遊物に可視光成分が反射して、マリインサー現象が発生しやすくなる可能性があります。ご留意下さい。

※ クリアフォトシステムを用いないで内蔵ストロボを発光させ、アタッチメントレンズをご使用の際には・・・

クリアフォトシステムを用いずに、アタッチメントレンズを取り付けた状態で内蔵ストロボを発光させた場合、撮影条件、カメラ/ハウジング/マウントベース/レンズアダプタペースの組み合わせ等によっては、得られる画像にゴースト/フレアが発生する可能性があります。

この現象は、透明なハウジングを通して写り込む事に起因します。この様な現象が発生する場合には、クリアフォトシステムを用いた外部ストロボ増灯をお勧め致します。クリアフォトシステムを用いない内蔵ストロボのみでの撮影はお勧め致しません。止むを得ず内蔵ストロボのみでの撮影を行われる場合には、アタッチメントレンズ取り付け部側からの有害光の進入を防ぐ様、注意深く遮光を行う事により、ゴースト/フレアの発生を低減出来る可能性があります。ご検討下さい。【この作業を行う場合、必ず「取付作業等を行うに当たって」をご確認頂き、内容にご同意下さい】